



ScholarOne Manuscripts リリースノート

2025 年第 3 四半期リリース

ScholarOne Relay を使った研究整合性レポート

3月にリリースされた [ScholarOne Relay](#) は、S1M とサードパーティーベンダー間の双方向データフローを可能にする新たな API レイヤーです。8月のリリースでは、潜在的な整合性懸念が指摘された論文の特定と優先度設定を支援する目的で、ScholarOne のユーザーインターフェースに複数の新機能が追加されました。

主な機能は以下のとおりです。

- [論文詳細] ページで見られる整合性チェックレポート。このレポートには、サービスベンダーから提供されるすべてのサードパーティーデータが表示されます。

The screenshot displays a manuscript detail page for 'WRK4-2012-0001'. The page includes a sidebar with navigation options: '論文情報' (Manuscript Information), '作業履歴' (Work History), and 'ファイル管理' (File Management). The main content area shows the manuscript title, author 'Peterson, Paula J. (代理操作) (連絡責任者)', and a list of tasks with their due dates and status. Two tasks are highlighted in red: '副編集者の割り当て' (Assign Associate Editor) with a due date of 2018-2-8 and '査読者の選択' (Select Reviewers) with a due date of 2018-1-19. Both are marked as '期限を 2744 日超過' (Exceeded deadline by 2744 days). The 'Integration Check' button is highlighted with a red box. The bottom of the page shows a navigation bar with options like 'HTML', 'PDF', '補足ファイル', '原稿ファイル', '要旨', 'カバーレター', '外部検索', and '整合性チェック'.

- 管理者/編集者ダッシュボードの [整合性レポート] 待ちリスト。ダッシュボード上のこの待ちリストには、サービスベンダーが定義したリスクインジケータに基づいてフラグ付けされたすべての論文が含まれます。この待ちリストでは「リスクの高い」論文に簡単にアクセスできますが、雑誌の既存のワークフローに影響することも変更を加えることもありません。

(注:[整合性レポート]待ちリストは、以下のスクリーンショットで[Medium and High Risk (中〜高リスク)]待ちリストとして表示されている[異常アクティビティ検出]待ちリストとは別の待ちリストです。)

8. 発行中

- 0 発行チェックリスト待ち
- 0 一括処理への割り当て待ち
- 0 一括処理への割り当て済み - エクスポート待ち

Integrity

0 整合性レポート

期限超過の改訂待ち論文

- 0 修正論文の提出待ち - 期限超過

- 整合性レポートでの[このレポートをクリア]の使用。レポートを「クリア」すると、その論文が自動的に[整合性レポート]待ちリストから削除されます。

整合性チェックレポート

印刷

ID WRK4-2012-0001
タイトル "test"

SIGNAL SUMMARY	VIEW MORE:
No Integrity Checks	

このレポートをクリア

実装

整合性チェックレポートは、ScholarOne Relay を介してサードパーティーの研究整合性パートナーのサービスを利用しているお客様のサイトにのみ表示されます。

[整合性レポート]待ちリストは、クライアント構成（ステップ10「ダッシュボード」）から有効化できます。クライアント構成へのアクセス権限がないユーザーは、統合を設定する際に[整合性レポート]待ちリストの有効化を求めるリクエストを含めてください。

この機能のご利用を希望されるお客様は、ScholarOne が統合を有効化できるようにするために、まずサービスベンダーと直接契約する必要があります。統合の設定の詳細については、アカウントマネージャーまたは ScholarOne サポートまでお問い合わせください。

異常アクティビティ検出レポートの新機能

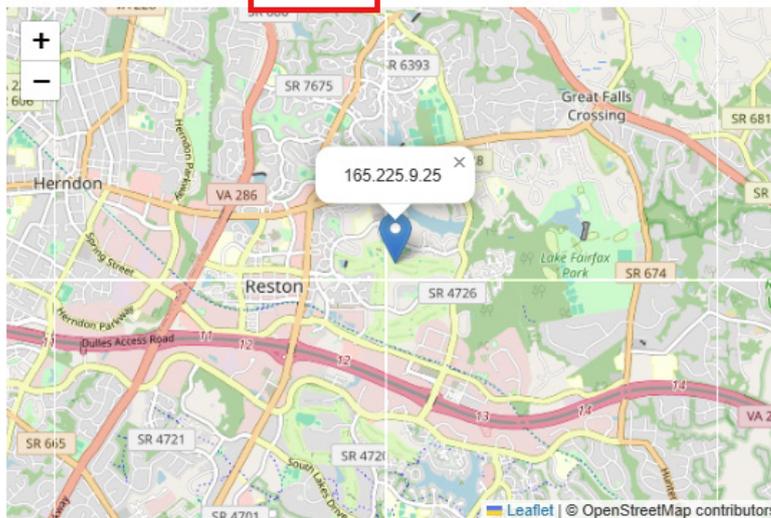
論文の潜在的な整合性の問題を特定し調査するためのツールの改善という ScholarOne の継続的な取り組みの一環として、異常アクティビティ検出（UAD）レポートに新たな機能を追加し、使いやすさを向上させました。

主な機能は以下のとおりです。

- **UAD レポートで IP アドレスの地図が利用可能に。** IP アドレスに関連する UAD フラグを調査する際に、リンクされた IP アドレスをクリックすることで、その IP アドレスの地理的位置を示す地図を生成できるようになりました。これにより、ScholarOne の外で IP アドレスの場所を調べる必要がなくなります。注: 地理的位置の地図は、本リリース後に生成されたレポートでのみ利用できます。

IP アドレス

1. 査読者, Lei Chen | 査読 IP: [165.225.9.25](#)



- **UAD バナーの色設定の新しいオプション。** アクションが実行された場合でも UAD アラートバナーが元の色を保持するように、サイトを設定できるようになりました。この変更の目的は、対処済みの論文に対して緑色の「問題なし」バナーではなく元の色のままのアラートバナーを表示することで、論文に関わるすべての関係者が UAD ツールがフラグ付けした問題を認識できるようにすることです。

レポートのクリア

- レポートのクリアをいつでも許可します。
- レポートが対処済みとマークされた場合、UAD バナーの色を保持する

実装

地理的位置の地図は、異常アクティビティ検出ツールを使用しているすべてのお客様がデフォルトで利用できます。UAD バナーの色の設定は、クライアント構成センターで確認できます（ステップ 17、論文詳細）。クライアント構成へのアクセス権限がないユーザーは、[ScholarOne サポートにチケットを提出して有効化をリクエストしてください。](#)

Java 17 へのプラットフォームアップグレード

このリリースの一環として、ScholarOne Manuscripts は Java 8 から Java 17 にアップグレードされました。この更新により、当社のプラットフォームはより新しく安全なサポートされているバージョンの Java で動作するようになり、パフォーマンスの向上、セキュリティの強化、長期的な安定性の向上が実現されました。お客様側でのアクションは不要です。このアップグレードにより、当社は引き続き信頼性の高い最新の体験を提供することができます。

新しい E メールタグ: ##継続_投稿_リンク##

新しい E メールタグ ##継続_投稿_リンク## を導入しました。このタグが解決されると、未提出フラグが付いた論文の投稿を再開するための安全で直接的なリンクが提供されます。著者はこのタグを使用することで、E メールリンク経由で草稿論文の投稿を再開できます。

この動作は、既存の修正、再投稿、および反論タグと似ています。

- ##継続_投稿_リンク## タグの説明:
著者がユニークで安全なハイパーリンクを使用して、現在未提出の単一の論文の投稿プロセスを継続できるようになりました。
- その対象となるのは、未提出フラグが付いた論文のみです（未提出論文と修正/再投稿論文の両方を含む）。
- 以下の既存のタグと同様に機能します。
 - ##修正論文_作成_リンク##
 - ##再投稿論文_作成_リンク##
 - ##反論_作成_リンク##
- 2段階のプロセス:
 1. 著者がリンクをクリック → 確認ページに移動します。
 2. 確認後 → 投稿ワークフローに直接遷移します（自動ログイン）。

実装

1. タグは、以下のような E メールテンプレートに配置されます。
 - a. "論文の差し戻し"
2. 解決された E メールには以下が含まれます。

備考: これは 2 段階のプロセスです。リンクをクリックすると、確認のための Web ページが表示されます: https://mc.manuscriptcentral.com/test?URL_MASK=123

3. ユーザーが:
 - リンクをクリックした場合: 確認ページが表示されます: 「諾否回答を確認してください」

- **[確認]** をクリックした場合: 自動的にログインし、次のいずれかのページに移動します:
 - 投稿ワークフローの**最初のページ**、または
 - これまでに入力したデータがすべて保持されている、**最後に閲覧したページ**。
- 他の論文へのアクセスを防ぐために、ナビゲーションは制限されています。

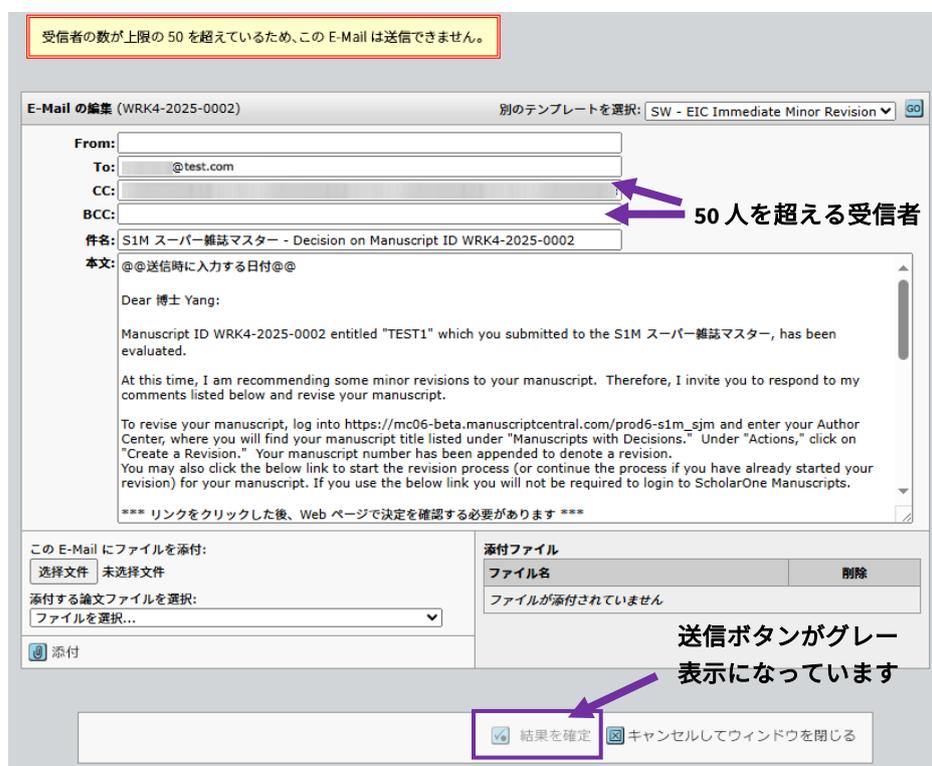
草稿がすでに存在しない場合は、既存のタグの論理に準じて動作します。つまり、草稿が未提出状態ではなくなった後に修正リンクや反論リンクを使用した場合と同様に、エラーまたは通知が表示されます。

ポップアップメールでの 50 件以上の受信者への E メール送信を制限

メッセージあたり受信者数 50 までという AWS SES の上限に準拠するために、ブロックされることになる E メールをユーザーが送信できないようにする新たな制限が追加されました。

そのプロセスは以下のとおりです。

- 受信者の総数が 50 を超えると、[保存して送信] ボタンが無効（グレー表示）になります。
- ポップアップメールの上部にエラーメッセージが表示されます（ブロックされた E メールアドレスの場合と同じです）。
- ユーザーは以下の方法でこの状況を解決できます。
 - **受信者を削除する:** 総数を制限値以下に減らすことで、[保存して送信] ボタンを再び有効にします。
 - **手動で受信者を追加する:** 受信者数が 50 を超えると、ボタンが再び無効になります。
- このチェックと措置は、手動（ポップアップ）メールにのみ適用されます。



備考: 自動送信メール（スケジュールされた通知、システムがトリガーする通知など）は、この制限の対象外です。

getSubmissionInfoFull API (v11) の読み取り専用インジケータ

getSubmissionInfoFull API を強化し、選択されたフィールドに対する読み取り専用インジケータ (<readOnly>) を追加しました。ただし、招待投稿（スタブ投稿）の場合にのみ適用されます。これにより、招待投稿の後続バージョンで、どのフィールドが編集可能か明確になります。

API のバージョン

- エンドポイント: /api/s1m/v11/submissions/full/metadata/
- サポートされているクエリパラメーター:
 - submissionids または documentids
 - site_name、locale_id、_type

呼び出しの例

```
/api/s1m/v11/submissions/full/metadata/submissionids?site_name=xyz&locale_id=1&ids='2025-1222.R1','2024-111'&_type=xml
```

招待（スタブ）投稿

リクエストに招待投稿が含まれている場合:

- API の応答には、特定のメタデータフィールド（下のリストを参照）に対する <readOnly> インジケータ（値は true または false）が含まれます。ただし、これはフィールドにデータが存在する場合のみです。
- 以下のフィールドにデータが含まれている場合、<readOnly> インジケータが表示される可能性があります。
 - type
 - title
 - runningHead
 - manuscriptAbstract
 - subCustomQuestionsTypePage
 - subCustomQuestionsFilePage
 - subCustomQuestionsAttrPage
 - subCustomQuestionsAuthorsPage
 - subCustomQuestionsDetailsPage
 - subTitle
 - attributes

例：

```
<manuscriptAbstract>
  <readOnly>true</readOnly>
  <responseValue>Test abstract</responseValue>
</manuscriptAbstract>
```

```
<title>  
  <readOnly>false</readOnly>  
  <responseValue>Draft Title</responseValue>  
</title>
```

更新: SFTP (Secure File Transfer) ライブラリをバージョン 8.1.0 にアップグレード

SFTP ライブラリをバージョン 7.3.0 から 8.1.0 にアップグレードし、SFTP ベースの論文エクスポートのセキュリティと信頼性を向上させました。このアップグレードにより、**最新で安全なアルゴリズム**がサポートされるようになりました。**ssh-rsa** アルゴリズムは、SSH プロトコルの最も広く使用されている実装の 1 つである **OpenSSH** によって非推奨とされました。OpenSSH や NIST が定めたものを含むセキュリティ標準では、ssh-rsa の使用を継続することは推奨されていません。

実装

- 既存のエクスポート機能に影響はありません。現在のエクスポートは従来通り動作します。
- ただし、ScholarOne では、ssh-rsa キーからより安全な代替手段 (rsa-sha2-256、ecdsa-sha2-nistp256、ed25519 など) への移行をお客様に推奨しています。これらはすべて、アップグレード後の SFTP ライブラリ (v8.1.0) で完全にサポートされています。
- 現在、この変更に対応して**お客様が SFTP キーの設定を更新する必要はありません**。ただし、長期的な互換性と業界標準への準拠を確保するために、できるだけ早くこれらの更新されたセキュリティ対策に合わせることをお勧めします。新バージョンの SFTP ライブラリを使い始める準備が整ったら、サポートチームに事例を提出してください。当社でお客様のサイトに新バージョンを有効化いたします。

更新: 簡易統計

ユーザーが簡易統計のリンクにアクセスしたときに、**簡易統計情報**がリアルタイムで生成されるようになりました。この変更により、以前の夜間バッチ処理が置き換えられます。

変更点:

- **従来:** 一部の簡易統計情報は、1 日 1 回夜間のバッチ処理で計算されていました。
- **現在:** 投稿統計、審査中論文の合計、最長停滞論文、ジャーナルの統計、および採択率がリアルタイムで計算され、最新の情報が即時提供されます。

今後の予定: ScholarOne Gateway

ScholarOne Gateway は、著者や査読者と出版社のポートフォリオを単一の刷新されたインターフェースを通じてつなぐ新しい中央ハブです。現在、選ばれた開発パートナーとのクロードパイロットフェーズで利用可能です。Gateway のリリースノートは一般公開されていませんが、パイロットテストをさらに多くのお客様に拡大していき、2026 年に完全な本格運用を開始する計画を進める中で、Gateway の機能の全容や拡張計画に関する詳細情報を近日中に公開する予定です。**詳細は、[当社 Web サイトをご覧ください](#)か、担当のアカウントマネージャーまでお問い合わせください。**